

## 令和4年度 日本大学山形高等学校 自己評価票

### 【本校の目指す学校像】

「日本大学教育憲章」に定める「日本大学マインド」及び『自主創造』の3つの構成要素及びその能力」を確実に身につけさせ「自主性を備えた人材」の育成を目指している。教育方針である「1. 自ら真剣に学習し、知識を高め、深い教養を身につけるよう努める」ための『知育』、「2. 豊かな情操と信愛の心に満ちた品性ある人格を養う」ための『徳育』、「3. 心身を鍛錬し、いかなる試練にも耐え得る強い精神力と身体を養う」ための『体育』を体系的に育成し、「知・徳・体」の調和のとれた全人教育により、生徒一人一人の「高き志」を実現できるきめ細かな教育活動を展開している。教育活動の目標は、「1. 学習指導：学びの質の向上」「2. 進路指導：進路実績の向上」「3. 生徒指導：凡事徹底」「4. 特別活動・部活動等の充実：文武両道の精神を育成」の4項目を具体的な指導項目として掲げ、生徒の育成に努めている。今後ますます高度化していく情報社会に適應できる確かな学力を身につけ「ICT教育」、勤労観・職業観を育む「キャリア教育」、未来を生き抜く人間力を高める「人間教育」を柱として、「自ら学ぶ」、「自ら考える」、「自ら道をひらく」生徒の育成に最善を尽くす。また、主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善、生きて働く知識・技能の習得など、新しい時代に求められる資質・能力を、育成知識の量を削減せず、質の高い理解を図るために全教職員が協働し「チーム学校」として教育活動に努める。そして、生徒による授業評価アンケート集計結果や教員自己評価票等にある内容を精査し、自己研さんに励み、教育改善のPDCAサイクルを構築し、「生徒と向き合う」意識の徹底と「生徒ファースト」が実感できる学校づくりに努める。

### 【本校の特長及び課題】

「自ら学ぶ」、「自ら考える」、「自ら道をひらく」生徒を育成しつつ、生徒一人一人の資質・能力の育成に努めながら進路希望を実現させるべくコース別学習指導の下、学力向上を目指し、基本的な生活習慣と能動的な学習習慣の確立に努めている。また、特別活動及び部活動の振興に努め、文武両道を校是とし、感動と一体感を涵養している。課題は、更なる特色教育の充実を図るとともに、少子化に伴う生徒募集の在り方、財政基盤の確立と校舎の耐震化である。耐震化については大学本部と連携し、本年度から校舎新築及び耐震・改修の基本設計に入ることができた。

### 令和4年度の実績結果

#### 【概況】

令和4年度も、引き続き新型コロナウイルス感染症対策に基づいた学校運営であった。しかしながら、感染対策が進むとともに保健所による一律の積極的疫学調査と濃厚接触者の特定が行われなくなったこと、それに伴い保健所との連絡、県等への報告がなくなったことで業務量は相当に軽減された。各校務分掌においても、昨年度まで中止、延期を余儀なくされた活動も、感染状況に応じながら、生徒たちの学びを狭めないように、感染拡大防止対策を徹底することによって行うことができた。一方、感染予防対策についてマンネリ化しつつあるとの指摘もあり、教員、生徒共に感染予防についての意識を継続できるように働き掛けていかなければならない。

ICT教育については、生徒一人1台タブレット端末を保有し活用しているが、更にハードウェア・ソフトウェアの両面を整備していくとともに、オンライン授業に対応した授業づくりに向け教員が研修を積み、実践していく必要がある。また、Classi(教育プラットフォーム)による課題や動画配信などの学習面での効果が出ており、加えて生徒及び保護者へ緊急連絡等を一斉に配信し、情報伝達の迅速性・確実性が得られ、生徒の安全・安心確保につながっている。

「生徒による授業評価アンケート」でも、タブレットを活用した授業による生徒たちの意欲と意識の高まりの効果と復習と予習のバランスを取りながら授業に参加しようとする姿勢が見てとれ、主体的な学びを促す学習活動が行われていることへの評価が分かる。「友人関係がうまくいっている」「学校生活が充実している」について、評価が増加しているが、これは昨年度までの新型コロナウイルス感染症予防による学校行事の変更や短縮等が今年度は少なくなり、学校での活動が増えてきたためと考えている。まだ感染状況は収束していないが、感染防止の上、学

習や課外活動を通して生徒たちが円滑な人間関係を形成することができ、心身の成長が実感できるように教育活動を継続していく。授業に対する評価についても、どの設問区分でも評価が上っている。これは、教員が毎年「生徒による授業評価アンケート」の個々の項目についての評価を省み、授業改善を行っている成果が表れているからと考えている。

生徒募集においては、特進コースの推薦制度等を導入し、全教職員が志願者と入学者増に向けて生徒募集活動に当たった。その結果、志願者は109名の減となったが、推薦志願者数が昨年よりも11名増加し、推薦専願と推薦併願を合わせて37名増加した。

校舎の耐震化等については、喫緊の課題であったが、大学本部と連携し、本年度から校舎新築及び耐震・改修の基本設計に入ることができた。また、校舎新築等とは別に、選ばれる学校として既存の校舎等の施設改修を進めながら少しでも快適に安全・安心な学校生活を送れるよう整備している。今後とも全教職員が協力して継続的に課題改善に当たっていききたい。校舎新築等に合わせて、本校は令和10年に創設70周年を迎えるに当たり、記念行事（記念式典、記念講演会、同窓会・校友会との連携による行事等）、周年誌発行の各委員会を設置し、記念事業を進めていくことにしている。

### 教育活動

取組目標	取組結果・進捗状況	達成状況
「新学習指導要領」, 「高大接続改革」への対応	「新学習指導要領」への対応として、令和6年度教育課程の一部改訂を大学本部へ申請・承認を得た上で、2023年4月に県へ申請する予定である。これは、進学コース理系及び特進コース文系・理系において2年次から数学Cを履修することにより、大学受験に向けて充実した指導を行うためのものである。「高大接続改革」に向けての取組は、「学力の3要素」を踏まえた教育活動をとおり多面的・総合的に評価する大学入学者選抜に備えるために、「主体的・対話的で深い学び」の視点からなる学習活動と英語の4技能、eポートフォリオの対策を進めた。「観点別学習状況の評価」（観点別評価）の導入については「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の3観点について、各教科で検討を重ね評価をしている。引き続き、「観点別学習状況の評価」の更なる充実とその質を高めることが必要不可欠である。また、今年度、生徒が目指すゴールを意識した学びを実践しながら、将来の夢を着実に育むことを狙いとし、スクール・ミッション及びスクール・ポリシーを策定・公表した。	A
I C T教育の推進	全生徒に対して一人1台のタブレット端末を使用できる体制が整っている。教員用のタブレット端末も、非常勤講師を含めた全教員に配布して、I C T機器の活用に向けて継続的に研修を行っている。6月の教員研修会では、Classiの新機能に関する研修を行った。大型ディスプレイ、短焦点プロジェクターを用いながら、生徒たちの主体的な活動を促すアクティブ・ラーニング等の学習を進めている。	A
基礎学力の向上	相互授業参観を通して、タブレット端末を用いた授業展開等、授業の相互点検を行い、教育力の向上を図った。今年度から全教科にわたり公開授業を行い、多くの教員が相互授業参観を行うようにした。教科部会で振り返りの時間を設け、内容の充実を図った。多様な学力の生徒たちに対応する授業進度・授業時間の確保と規律性のために始業時間を守るように取り組んだ。また、各種研修会への参加を促した。	A

### 学校生活への配慮

取組目標	取組結果・進捗状況	達成状況
いじめ防止のための	二者面談や普段からの声掛けを通して生徒理解に努め、生徒との信頼関係を築い	B

取組	た。	
	保健室、相談室、サポート室と連携を図り、いじめの未然防止と早期発見に努め、組織として対応した。	A
	いじめ発見調査アンケートを実施し、いじめの未然防止、早期発見、早期対応に努めた。	A
	各種研修会へ積極的に参加し、指導力の向上に努めた。	B
	ネット被害防止スクールガード事業におけるネットパトロール等を通して、いじめの未然防止やSNSトラブル防止対策に取り組んだ。	B
	重大事態は発生しなかったが、発生した場合のいじめ防止対策推進法及び本校のいじめ対策基本方針に従った対応体制を整えている。	B
基本的生活習慣の確立	新入生とその保護者に対して入学前の3月に事前指導を実施し、入学後のオリエンテーションにおいて再度全体指導を行った。	A
	共通項目に基づき、教員全体で統一した指導を徹底した。	B
	各学期の始業式後に、学年ごとの頭髪・服装検査を実施した。(2学年は修学旅行前、3学年は卒業式前にも実施)	A
交通安全・問題行動の防止	外部講師による生活指導講話を実施した。(「交通安全教室」「薬物乱用防止・SNSのトラブルについて」「十代の性について」「タバコの害について」)	A
	学年集会や各クラスのHRにおいて事故防止や交通ルールの遵守等の意識の向上を図った。	B
	登下校時の通学路の巡回指導を実施した。	B
	問題行動を未然に防ぐため、継続した指導や注意喚起を行った。	B

#### 課外活動

取組目標	取組結果・進捗状況	達成状況
部活動の適正化	部活動に関する活動方針を確認するとともに、発展的な改革は継続中である。部活動の再編成については現在の高校2年から女子バレーボール部と囲碁将棋部、高校1年生からゴルフ部と女子バスケットボール部が部員募集停止となっている。新しい体育奨学生制度は令和5年度入学生から導入をする。	B
	新型コロナウイルス感染症対策をしっかりとやりながら活動を続け、感染防止を心掛けた。県外遠征の後は3日後に抗原検査を実施するようにしている。	A
課外活動の活性化	適切な方針・組織の下、課外活動の活性化に努めたが、今年も新型コロナウイルス感染症のため、いくつかの活動・大会・イベントが中止や縮小となってしまった。	B

#### 進路指導

取組目標	取組結果・進捗状況	達成状況
日本大学への進学者数増加に向けた取組	授業の充実を図りつつ、チャレンジ模試・基礎学力到達度テストを意識した学習活動及びPDCAサイクルを促すよう各学年に呼び掛けた。	B
	夏期・冬期学習会の内容を基礎学力到達度テスト対策として実施し、過去問題・関連問題に触れさせながら基礎学力養成に努めた。	B

	1年生に対しては、入学時のオリエンテーション時に、前年度発行の「日本大学進学ガイド」を用いて、日本大学の学部等についてクイズ形式で親しめるようにしている。	A
	2年生に対しては、全生徒を対象に今年度版「日本大学 進学ガイド」を用いて、大学・学部研究を行うキャリア学習を実施するとともに、3年生対象の「推薦基準説明会」やオープンキャンパスにも参加を促した。	B
	2年生スポーツコース・進学コース生徒全員を対象とした10月実施の「大学進学説明会」では、私立大学への推薦方式等を説明するとともに日本大学の魅力を伝え、進路選択の中心に据え興味をかきたてるよう工夫した。	A
	3年生は具体的な情報を自ら求められるよう本校での日本大学合同学部説明会を実施した。依頼した学部・専門学校は、法、文理（文系・理系）、経済、商、国際関係、危機管理、理工、生産工、生物資源科、医学部附属看護専門学校。芸術学部は4月に実施済みで、工学部はオープンキャンパス無料バスツアーが計画されているので、含めなかった。説明会の翌週には「推薦基準説明会」を実施した。	A
	生産工学部への推薦合格者を対象とした高大連携教育には、合格発表後すぐに取り組めるよう準備し、大学での学びを意識できるよう配慮した。	A
きめ細かい進路指導	学級担任・学年との連携を密にしながら、生徒の現状を把握しつつ進路指導に関する情報提供やアドバイスを行った。	A
	情報配信ツールClassiを利用しつつ、「進路だより」の配信や「各種説明会」への参加希望調査などを行った。進路情報の提供は生徒のみならず、保護者にも向けられていて進路相談に応じられる環境づくりがなされている。 Benesseのスタディーサポート活用研修会や探究活動、小論文ノート指導等の担任研修を通し、担任がホームルームで生徒の状況に応じた指導ができるようにした。	B

#### 保健衛生

取組目標	取組結果・進捗状況	達成状況
感染症予防対策の再確認	マナー化しつつある状況を刺激し改善させるまでには至らなかったが、新型コロナウイルス感染症等に係わる対応については、学期ごとに保護者・生徒へ配信・確認を行っている。また、定期的に「保健だより」を発行、その時期に応じた保健情報等を伝えている。	B
生徒への支援や対応を「チーム」で行う	各学年の不応傾向の生徒の有無や出欠の状況等を継続的に確認したり面談を実施したりすることを、必要なメンバーで情報共有しながら行うことができた。	B

#### 図書

取組目標	取組結果・進捗状況	達成状況
生徒、教職員、一人一人に届く広報活動	図書館講座として、山形市立図書館と市内高校との連携事業に参加し、参加者にとって充実した活動となった。募集の際も広く声を掛けることができた。	A
知的興味へ誘う環境づくり	新着本紹介では、掲示板更新の頻度を増やした。館内では生徒が作ったポップと共に特集テーマの本を紹介したり、特集本コーナーの見せ方を工夫したりと、好評だった。	A

## 広報

取組目標	取組結果・進捗状況	達成状況
生徒募集に当たり、 専願者・総入学者を 増やす	特進コースの推薦専願方式を導入し、11名の志願者があった。また、推薦専願と推薦併願を合わせて昨年度比37名増加した。しかし、専願者を対象にした推薦入試奨学生制度は導入できなかった。全受験生に対し、一般入試奨学生制度を導入することができた。しかし、志願者は昨年度比109名の減となった。教員の生徒募集に対する意識向上を図る一環として、教職員に対し、これまでの分析の提示のほかに、男女別等の項目も増やしたり、グラフ等を用いての視覚化に努めたりした。また、校長・広報主任を中心に、県内の中学校61校と塾24校をまわり、本校の教育活動の発信に努めた。	B
HPの内容の一層の 充実と利用を図ると ともに、SNSを有 効に活用する	ホームページ係を4名に増やし、学年行事の掲載を分担できたことや、部活動顧問による大会成績等の掲載により、更新頻度の向上につなげることができた。技術的な問題等により、ホームページに学校説明会・部活動体験会などの申込みバナーを設けることができなかった。SNSの活用には至らなかったが、今後は生徒会役員と協同しながら、学校行事の記事等について、SNSを用いて掲載する予定である。	B

## 管理運営

取組目標	取組結果・進捗状況	達成状況
財政基盤の確立	冗費節減はもちろんのこと、ゼロベース予算を基本としながらも、予算執行に当たり、優先順位やその必要性を慎重に再検討するとともに、教職員の学校経営に対する個々の意識改革の徹底により、経費節減等支出削減を積極的に促進し、財政状況が改善するよう継続して取り組んだ。	B

※【A達成できた、B大体達成できた、Cあまり達成できなかった、D達成できなかった】

## 新型コロナウイルス感染症に関する対応と今後の課題について

<ul style="list-style-type: none"> <li>・感染症対策の基本として、こまめな手洗い、不織布マスクの着用を徹底し、健康観察の入力、清掃時の教室、情報・芸術・体育など実習・実技を伴う授業での場面と時間ごとの消毒、図書室における閲覧された本などの消毒や密にならない座席配置、昼食指導とともに、通学時における列車・バス利用の際の感染症予防のための指導を今年度も継続して行った。また、感染症に対する新しく正しい情報を吟味した上で、生徒・教職員に提供し、感染症と別の健康被害（例えば熱中症）を同時に予防するべく、季節ごと、状況ごとに対応した。以下、校務分掌ごとの対応と課題等について記す。</li> <li>・全生徒に対して一人1台のタブレット端末を使用できる体制が整っている。教員用のタブレット端末も、非常勤講師を含めた全教員に配布して、ICT機器の活用に向けて継続的に研修を行っている。6月の教員研修会では、Classiの新機能に関する研修を行った。大型ディスプレイ、短焦点プロジェクターを用いながら、生徒たちの主体的な活動を促すアクティブ・ラーニングなどの学習を進めている。現在までは、ほぼ年間行事計画どおりに授業等教育活動が遂行できた。文化祭は予定どおり2日間の日程で行ったが、2日間共に午前中だけの短縮実施とした。</li> <li>・生活指導部では、年4回の生活指導講話について、昨年まで放送により実施していたが、今年度は手指消毒の徹底や、十分な間隔をとることで、4回全て体育館で実施することができた。電車内及び店内においてのマスク着用の徹底やマナーを生徒一人一人が意識できるように常日頃からホームルームなどを通し、指導していく必要がある。</li> <li>・部活動においては、県からの通知で、県外に行った場合、現在は3日後に抗原検査をやることになっている。</li> </ul>
-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

しかし公式戦の場合は抗原検査キットを学校から支給しているが、練習試合などの県外遠征の場合は部（又は個人）で準備することになっている。抗原検査キットが1個1,500円前後するので県外に行く機会が増えると部（又は個人）の経済的負担が増えてしまい部活動の活性の妨げになる。公立高校は抗原検査キットが県から支給され対応しているが、本校も練習試合を含め学校から支給するか、毎回検査をしなくてもいいように対応を考えていく必要があると考える。

- ・進路指導部としては、iPadを進路情報の取得や各種説明会への参加に活用することができている。また、Zoomによる面接等にも利用する場合があります、その際には進路指導部や担任から使用法や留意点等を説明するようにしている。オープンキャンパス参加や受験に際しては、新型コロナウイルスへの感染に対する注意喚起をした。

- ・保健衛生部では、今年度も感染予防対策を行いながら日々の教育活動を行い、特にクラスターの発生等のトラブルもなく各種行事が実施できたことは良かった。普段の感染予防対策としては、手指消毒やマスク着用が定着したこと、ワクチン接種している者も多いこと、抗原検査キットが入手しやすくなり体調不良時に自分で検査しやすくなったこと、現在も定期的に消毒作業を継続していること、新型コロナウイルス感染症と共に考える必要がある季節ごとの健康被害予防の知識が向上・定着しつつあること、保護者から新型コロナウイルス感染症に関する連絡が入った際にどのような情報を得る必要があるか、教職員の知識や対応スキルが上がったこと、関係者への報告が定着したことが挙げられる。一方、矛盾するが、反面「マンネリ化」していることも否めない。一部の者は手洗いやマスク着用を怠ったり、ソーシャルディスタンスを取らない状況下でマスクを外したり、毎朝の健康チェックの入力を怠る者が増加したりしている。また、「体調不良があると欠席扱いにならない」という情報も浸透してきているため、事実と違う内容での欠席連絡も増えている。個々人の問題意識の「温度差」の是正は困難である。

新型コロナウイルス感染症の感染症法上での扱いが変わるまでは、担任や部活動顧問を主とした教員それぞれが、欠席した生徒一人一人に連絡し体調や受診状況を詳しく聴取したり、発熱等の諸症状があり未受診の場合は受診勧告し診断結果を学校に報告するよう声掛けをしたりするなどの対応を継続するしかないと考える。

- ・図書館利用について、密を避けるため、通常56席を37席に座席数を減らしている。また、2人掛けの机にアクリル板を設置している。コピー機利用の待機者に対しては並ぶ列の立ち位置をテープで示している。閲覧された本、返却された本はすぐ書架に戻さず毎回消毒している。紫外線で本を除菌する除菌ボックスも設置した。利用者向けには入口に消毒液を設置し、閲覧室内で使用された机、椅子を毎日朝、昼休み、閉館時に消毒している。書庫内に換気扇がないため、サーキュレーターを2台設置し、空気の循環を良くした。

- ・広報活動において、部活動体験会・学校説明会をホームページからの申込み制とし、定員を設けて実施した。また、当日は参加者カードに健康状態を記入して提出を義務付けた。なお、学校説明会については間隔を空けた指定席で実施した。

- ・管理運営面では、新型コロナウイルス感染拡大防止対策として、購買部、事務室窓口等で順番を待つ生徒が、密にならないようポスターを作成し注意喚起を行い、さらに、間隔を取るための立ち位置にテープを貼るなど工夫しており、用務員は、階段の手すり、ドアノブ、窓ガラスの取手など、普段生徒、教職員等が接触する場所のアルコール消毒を行っている。また、国・県からの新型コロナウイルス感染症対策等の補助金を有効かつ最大限に活用し、アルコール消毒液やサーキュレーター、医療用抗原検査キットなどを購入し、安全な環境の下、生徒たちの学びの保障に資する対応をすることで、保護者の方々にも安心してもらえるようにした。

## 令和5年度を取組目標及び方策

### 教育活動

取組目標	取組方策	取組スケジュール
新学習指導要領を踏まえた上での授業・評価の改善	「新学習指導要領」への対応として、令和6年度教育課程の一部改訂を大学本部へ申請・承認を得た上で、2023年4月に県へ申請する予定である。これは、進学	通年

	<p>コース理系及び特進コース文系・理系において2年次から数学Cを履修することにより、大学受験に向けて充実した指導を行うためのものである。シラバスと評価の観点・内容・方法、成績評価の方法を、2021年8月に行われた日本大学付属高等学校等校務分掌研修会の講演「新学習指導要領・2022年度に向けた検討ポイント～観点別評価の導入に向けて～」等を参考として年次進行で作成し、実行に移していく。</p>	
<p>生徒による授業評価アンケート結果に基づく授業改善</p>	<p>前年比較(22-21年)が全項目にわたってプラスの評価を得ているので、相互授業参観や教科部会で振り返りの時間を設けることを継続的に行い、授業改善を行っていく。</p>	<p>通年</p>
<p>「高大接続改革」への対応</p>	<p>「高大接続改革」に向けての取組は、「学力の3要素」を踏まえた教育活動を通し多面的・総合的に評価する大学入学者選抜に備えるために、「主体的・対話的で深い学び」の視点から成る学習活動と英語の4技能、eポートフォリオの対策を進める。</p>	<p>通年</p>
<p>ICT教育の推進</p>	<p>オンラインでの授業実施に向け、環境を整える。生徒一人1台タブレット端末を保有しているため、ハードウェア面での環境は整備されつつある。更にハードウェア・ソフトウェアの両面を整備していくとともに、オンライン授業に対応した授業づくりに向け教員が継続的に研修を積み、実践していく。Classi(教育プラットフォーム)により、教育面での効果が期待されることに加え、生徒及び保護者へ緊急連絡等を一斉に配信し、情報伝達の迅速性・確実性が得られ、生徒の安全・安心確保につなげる。</p>	<p>通年</p>

#### 学校生活への配慮

取組目標	取組方策	取組スケジュール
いじめ防止のための取組	<p>普段からの声掛けや二者面談を通して生徒理解に努め、生徒との信頼関係を築く。</p>	<p>通年</p>
	<p>保健室、相談室、サポート室と連携を図り、いじめの未然防止と早期発見に努め、組織として対応する。</p>	<p>通年</p>
	<p>いじめ発見調査アンケートを実施し、いじめの未然防止、早期発見、早期対応に努める。</p>	<p>6月・11月</p>
	<p>各種研修会へ積極的に参加し、指導力の向上に努める。</p>	<p>通年</p>
	<p>ネット被害防止スクールガード事業におけるネットパトロール等を通して、いじめの未然防止やSNSトラブル防止対策に取り組む。</p>	<p>通年</p>
	<p>重大事態への対応については、いじめ防止対策推進法及び本校のいじめ対策基本方針に従い、適切に対応し</p>	<p>通年</p>

	ていく。	
基本的な生活習慣の確立	新生とその保護者に対して入学前の3月に事前指導を実施し、入学後のオリエンテーションにおいて再度全体指導を行う。	3月・4月
	教員全体で共通項目に基づく統一した指導を徹底する。	通年
	各学期の始業式後に、学年ごとの頭髪・服装検査を実施する（2学年は修学旅行前、3学年は卒業式前にも実施）。	通年
交通安全・問題行動の防止	外部講師による生活指導講話を実施する。（「交通安全教室」「SNSのトラブルと薬物乱用防止について」「10代の性について」「タバコの害について」）	通年
	学年集会や各クラスのHRにおいて事故防止や交通ルールの遵守等意識の向上を図る。	通年
	登下校時の通学路の巡回指導を実施する。	通年
	問題行動を未然に防ぐため、継続した指導や注意喚起を行う。	通年

#### 課外活動

取組目標	取組方策	取組スケジュール
部活動の適正化	部活動に関する活動方針を確認するとともに、発展的な改革を進める。特に部活動の再編を進める。	4月～7月：生徒数や教員数を踏まえての部活動の検討を進める。
	新型コロナウイルス感染症対策をしっかりとやりながら活動を続け、感染防止に心掛ける。	通年
課外活動の活性化	適切な方針・組織の下、課外活動の活性化に努める。	通年

#### 進路指導

取組目標	取組方策	取組スケジュール
日本大学への進学者数増加に向けた取組	キャリア学習や学部合同説明会、推薦基準説明会の充実とともに、新型コロナウイルス感染状況を踏まえ、オープンキャンパス等への積極的参加を促す。	通年
きめ細かな進路指導	進路指導部と担任が連絡を密に取りながら、生徒のよりよい進路選択・進路希望達成を目指す。また、Classiと紙媒体を上手く利用し、タイムリーな情報や取り組むべきことなどを発信していく。	通年

#### 保健衛生

取組目標	取組方策	取組スケジュール
感染症を含むあらゆる健康被害の予防対策の発信・周知	感染症の法的扱いの変化に応じて新しい情報を収集し分かりやすく発信する。あわせて、その他の疾病や季節ごとの健康被害予防についても周知する。	通年



生徒の適応状況の早期把握と適切な支援	不適応等のインシデントが起きた生徒を早期把握し、社会的窓口も含めたチームとして早期対応・支援する。	通年
--------------------	---------------------------------------------------	----

#### 図書

取組目標	取組方策	取組スケジュール
生徒、教職員、一人一人に届く広報活動	アフターコロナの図書館講座の充実を図る。	通年
読書指導における教員との連携	教員と連携し図書館利用時の授業の内容を充実させる。	通年

#### 広報

取組目標	取組方策	取組スケジュール
Web 出願の導入と、入学者増へ向けた有効活用	Web 出願を導入し、出願者の利便性向上・入試業務簡略化を図る。	令和5年1月～6月
	部活動体験会・学校説明会のWebエントリー化により、志願者の早期取込みを図り、入学者増へつなげる。	7月～12月
安定した生徒募集及び入学者確保	専願者を増やすために専願者優遇の入試制度を設ける（専願者に対する奨学生制度の導入等）。	2月～4月
	校長・広報主任を中心にして、県内の中学校と塾を回り、本校の教育活動の発信に努める。	5月～12月
	日本大学付属校の優位性を、よりアピールする。	通年

#### 管理運営

取組目標	取組方策	取組スケジュール
財政基盤の確立	冗費節減はもちろんのこと、ゼロベース予算を基本としながらも、予算執行に当たり、優先順位やその必要性を慎重に再検討するとともに、教職員の学校経営に対する個々の意識改革の徹底により、経費節減等支出削減を積極的に促進し、財政状況が改善するよう継続して取り組む。	継続して取り組む。

#### 中長期的目標の取組結果

##### 教育活動

取組目標	取組結果・進捗状況	達成状況
ICT教育の推進	全生徒に対して一人1台のタブレット端末を使用できる体制が整っている。教員用のタブレット端末も、非常勤講師を含めた全教員に配布して、ICT機器の活用に向けて継続的に研修を行っている。6月の教員研修会では、Classiの新機能に関する研修を行った。大型ディスプレイ、短焦点プロジェクターを用いながら、生徒たちの主体的な活動を促すアクティブ・ラーニング等の学習を進めている。	A

##### 学校生活への配慮

取組目標	取組結果・進捗状況	達成状況
校則に関する共通理解の下で、中長期的な視点に立った指導	本校の校則について周知徹底を図り、教員間で温度差のない共通した統一的指導を徹底した。その際、中長期的な生徒指導や支援を行う上で、従来の指導方法だ	B

と適切な対応	<p>けに固執することなく、社会の実情を把握し、状況に応じた適切な対応について教職員間で継続的に議論した。</p> <p>学年担任会、生活指導部会等で適切な指導や支援について議論を重ね、指導内容について繰り返し検証・考察を重ねた。中長期的な取組の観点から、校則等の見直しについての議論も含めながら考えた。</p>	
--------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	--

#### 管理運営

取組目標	取組結果・進捗状況	達成状況
財政基盤の確立	<p>冗費節減はもちろんのこと、ゼロベース予算を基本としながらも、予算執行に当たり、優先順位やその必要性を慎重に再検討するとともに、教職員の学校経営に対する個々の意識改革の徹底により、経費節減等支出削減を積極的に促進し、財政状況が改善するよう継続して取り組んだ。</p>	B

※【A達成できた、B大体達成できた、Cあまり達成できなかった、D達成できなかった】

#### 中長期的目標及び方策

##### 教育活動

取組目標	取組方策	取組スケジュール
ICT教育の推進	<p>オンラインでの授業実施に向け、環境を整える。生徒一人1台タブレット端末を保有しているため、ハードウェア面での環境は整備されつつある。さらにハードウェア・ソフトウェアの両面を整備していくとともに、オンライン授業に対応した授業づくりに向け教員が継続的に研修を積み、実践していく。Classi（教育プラットフォーム）により、教育面での効果が期待されることに加え、生徒及び保護者へ緊急連絡等を一斉に配信し、情報伝達の迅速性・確実性が得られ、生徒の安全・安心確保につなげる。</p>	通年

##### 学校生活への配慮

取組目標	取組方策	取組スケジュール
校則に関する共通理解の下で、中長期的な視点に立った指導と適切な対応	<p>本校の校則について周知徹底を図り、教員間で温度差のない共通した統一的指導を徹底していく。その際、中長期的な生徒指導や支援を行う上で、従来の指導方法だけに固執することなく、社会の実情を把握し、状況に応じた適切な対応について教職員間で継続的に議論が重要である。</p>	<p>学年担任会、生活指導部会等で適切な指導や支援について議論を重ね、指導内容について繰り返し検証・考察を重ねていく。中長期的な取組の観点から、校則等の見直しについての議論も含めながら考えていく。</p>

##### 管理運営

取組目標	取組方策	取組スケジュール
財政基盤の確立	<p>ゼロベース予算、冗費の節減、教職員の学校経営に対する個々の意識改革の徹底により、経費節減等支出削減を積極的に促進し、財政状況の改善に向け継続して</p>	継続して取り組む。

	取り組む。	
--	-------	--